



祥余自序志

後編  
拾八

十

へ遠13  
2475  
33



13  
2475  
38

此の 漢金見古志武備を之始ハ

目錄

皇山の上節を條  
あきあき守切の

軍備の支

茶 却政のいとと清政の支

牧の方とつと海を人々を合ら支

茶 補毛のたけけとつと支



伊予

後見世志武編を三十八



和名山手保 年飯の支  
武蔵守別取

并加政と云ふ方と後志の支

お侍年辰二位左衛門尉藤原相長相模守  
豆の玉修部守あて侍生者の一  
一より一美別ととらぶ先尾侍を方に  
ちどらるるひの結借りらるる一とと好曲



此條地馬の政花は殿中御之  
心三郎を保ちては協尉常務徳  
本少三郎聖孝と上流に於り  
肥後守政花は少政の末子とて牧  
の事ありと夫婦の事いかに  
しつと十の女の結婚と  
がの事ありと今年九月に  
肥後守は任じらるるに  
王付政花の事

子肥後守ははなして  
先づとて之と婦子の事  
子ありとて之と文政の  
すて四郎ありては  
りやうとお徳守は  
右左將隊人の心付  
御意を割の長と  
心にも右左將の  
名付ありては



の年<sup>とし</sup>して牧<sup>まき</sup>のころの二<sup>ふた</sup>冊<sup>まき</sup>とてしる  
しゆ<sup>しゆ</sup>政<sup>せい</sup>札<sup>さつ</sup>のく<sup>く</sup>文<sup>ぶん</sup>子<sup>し</sup>、婦<sup>ふ</sup>智<sup>ち</sup>子<sup>し</sup>之<sup>の</sup>ま  
し<sup>し</sup>と牧<sup>まき</sup>のころ<sup>ころ</sup>を<sup>を</sup>一<sup>いつ</sup>入<sup>いれ</sup>りし<sup>し</sup>今<sup>いま</sup>  
夜<sup>よ</sup>政<sup>せい</sup>札<sup>さつ</sup>と我<sup>われ</sup>録<sup>ろく</sup>とて<sup>とて</sup>女<sup>に</sup>地<sup>ち</sup>を<sup>を</sup>す<sup>す</sup>ま  
上<sup>かみ</sup>座<sup>ざ</sup>一<sup>いつ</sup>ころ<sup>ころ</sup>も<sup>も</sup>く<sup>く</sup>聖<sup>せい</sup>日<sup>にち</sup>抄<sup>しょう</sup>政<sup>せい</sup>か  
角<sup>かく</sup>賣<sup>う</sup>の洞<sup>どう</sup>院<sup>いん</sup>の録<sup>ろく</sup>子<sup>し</sup>集<sup>しゅう</sup>事<sup>じ</sup>一<sup>いつ</sup>法<sup>ほふ</sup>海<sup>かい</sup>  
七<sup>しち</sup>冊<sup>ぱく</sup>別<sup>べつ</sup>え<sup>え</sup>武<sup>ぶ</sup>元<sup>げん</sup>子<sup>し</sup>も<sup>も</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>長<sup>ちやう</sup>え<sup>え</sup>ま<sup>ま</sup>  
和<sup>わ</sup>漢<sup>かん</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>我<sup>われ</sup>一<sup>いつ</sup>上<sup>かみ</sup>座<sup>ざ</sup>と<sup>と</sup>繋<sup>つな</sup>  
ぎ

一<sup>いつ</sup>海<sup>かい</sup>の<sup>の</sup>ハ<sup>ハ</sup>録<sup>ろく</sup>一<sup>いつ</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ころ<sup>ころ</sup>と<sup>と</sup>ハ  
し<sup>し</sup>を<sup>を</sup>抄<sup>しょう</sup>政<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>ころ<sup>ころ</sup>と<sup>と</sup>ハ  
あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>二<sup>に</sup>集<sup>しゅう</sup>の<sup>の</sup>福<sup>ふく</sup>系<sup>けい</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>と  
あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>一<sup>いつ</sup>あり<sup>あり</sup>と<sup>と</sup>世<sup>よ</sup>存<sup>ぞん</sup>す<sup>す</sup>一<sup>いつ</sup>と<sup>と</sup>ハ  
り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>一<sup>いつ</sup>冊<sup>ぱく</sup>親<sup>しん</sup>子<sup>し</sup>仙<sup>せん</sup>と<sup>と</sup>繋<sup>つな</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>の<sup>の</sup>  
皇<sup>こう</sup>土<sup>ど</sup>あり<sup>あり</sup>し<sup>し</sup>一<sup>いつ</sup>が<sup>が</sup>今<sup>いま</sup>抄<sup>しょう</sup>政<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>ころ<sup>ころ</sup>と<sup>と</sup>ハ  
と<sup>と</sup>ハ<sup>ハ</sup>し<sup>し</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>唯<sup>ただ</sup>今<sup>いま</sup>の<sup>の</sup>位<sup>ゐ</sup>子<sup>し</sup>政<sup>せい</sup>札<sup>さつ</sup>を  
病<sup>びやう</sup>身<sup>み</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>也<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>ど<sup>ど</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>ハ<sup>ハ</sup>し<sup>し</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>

也くありんせらるるは少くも政紀大  
本々君のツギがちゆりや神上信  
まらぬ将軍の法基正のつらひ  
て手厚子孫の命一白濁西條とて  
心紀上信とて病報が心を刻  
してあつて一らんまを計らぬの  
刻信が心をよるんぞ政紀とて  
ト天理とのごとく一病を以て

としてから条とてとせらるる  
どや条と政紀の刻信が心を  
まらぬも条の刻信が心を  
まらぬも一信とて病を以て  
政紀の刻信が心をよるんぞ  
まらぬも条の刻信が心を  
まらぬも一信とて病を以て  
のまらぬも条の刻信が心を



すしと其のまゝと北條の舞かき  
福と北條の海ありと川原のな中  
そよのまを信松とありひくもす  
砂のふりありとすり水を北條に人  
のまか面月ありと若年の平保我を  
樹んぞらそ分なりとそちまよいと  
平保もふいとそそありとそ山がしは  
松島のあまともらや天のほろの松

ゆりしとそ東歌の平度海にせうら  
北條の信松のやほろとそまほの  
一とありとそとそとそとそとそと  
ゆりしとそ平保ありとそとそとそと  
糸のありとそとそとそとそとそと  
かきしとそまゝと北條か歌務りしと  
其のまゝとそとそとそとそとそと  
ゆりしとそとそとそとそとそと

百三十一 何事あはれに海とすしるる果  
か一説の記すもくしりしりすもくも  
かしくとゆまじも天合のあししとて  
説くとも心記かしくさへさへらしり  
とてたと飛来ゆかちるもとんをた  
く事と推しあしりしりし心記と説く  
あはれにす海人のあはれらもあしり  
ゆまじの事ゆかしくとてさへらしり

百三十二 何事あはれに海とすしるる果  
か一説の記すもくしりしりすもくも  
かしくとゆまじも天合のあししとて  
説くとも心記かしくさへらしり  
とてたと飛来ゆかちるもとんをた  
く事と推しあしりしりし心記と説く  
あはれにす海人のあはれらもあしり  
ゆまじの事ゆかしくとてさへらしり

あらしきしごとまゝ一五日と見合ふ  
のまゝに破てツのさあけり  
ごまらぐ一唐一ツも成の葉  
よらしむらごしと一ツも加  
のトとら一ツも一ツも  
よらごまらしむらごしと一ツも  
よらごまらしむらごしと一ツも  
よらごまらしむらごしと一ツも  
よらごまらしむらごしと一ツも

あらしきしごとまゝ一五日と見合ふ  
のまゝに破てツのさあけり  
ごまらぐ一唐一ツも成の葉  
よらしむらごしと一ツも加  
のトとら一ツも一ツも  
よらごまらしむらごしと一ツも  
よらごまらしむらごしと一ツも  
よらごまらしむらごしと一ツも  
よらごまらしむらごしと一ツも

しつと申すに事柄のやうに主保の  
云政礼がたを云云しと云ひ  
と云ふはよるは又右後之政礼  
か死にらしよるは主保ののらと云ふ  
とも送るしつと云ふは協同の地  
の心算も申すしつと云ふは日暮  
体のおろし政礼七中家におろし  
かこころすを申すは事柄と云ふは  
しつと云ふは

しつと云ふは  
しつと云ふは

牧の方平太と申すは

系 祐も少前村と云ふは

元久二年二月廿日  
銘もろしつと云ふは  
しつと云ふは



まゝく成る守りし平君阿仁の計  
もつらうし 破り風歩りしを強きを  
うまうしとみくしししし物の方を  
幸ひとせしむし上け政一邪智とを先  
名と年とくといしとも根のあそりし  
まのしし破りのししとをさしサ政の  
清みのをさししししししししししし  
まのししとみくしししししししししし

ししししししししししししししししし  
らんしししししししししししししししし  
の計を加しししししししししししし  
まを我らに奪ふ計ししししししししし  
計ししししししししししししししししし  
りししししししししししししししししし  
踏ししししししししししししししししし  
しししししししししししししししししし



しつとあはれと世との因縁静かな  
砂もひらきとらふとて甲公の  
くそとあはれと世との因縁静かな  
かそちひまらとて甲公の  
のくそとあはれと世との因縁静かな  
まどもあはれと世との因縁静かな  
かそちひまらとて甲公の  
のくそとあはれと世との因縁静かな  
まどもあはれと世との因縁静かな  
かそちひまらとて甲公の  
のくそとあはれと世との因縁静かな

の仕合ありとて甲公の  
かそちひまらとて甲公の  
のくそとあはれと世との因縁静かな  
まどもあはれと世との因縁静かな  
かそちひまらとて甲公の  
のくそとあはれと世との因縁静かな  
まどもあはれと世との因縁静かな  
かそちひまらとて甲公の  
のくそとあはれと世との因縁静かな  
まどもあはれと世との因縁静かな  
かそちひまらとて甲公の  
のくそとあはれと世との因縁静かな

よの用事やあつてやいふは所公の  
先づ静子様子の孫ゆつて素  
らんといふもさうもかむをさう  
よふもさうしやうははづき母子  
の御事と申で流人の家から流るれ  
をゆつといふは流るるも言流るを  
まはとていふは流るるも言流るを  
まはとていふは流るるも言流るを  
まはとていふは流るるも言流るを

曲との海客の中はゆつていふ  
ゆつていふはゆつていふはゆつて  
先づ静子様子の孫ゆつて素  
らんといふもさうもかむをさう  
よふもさうしやうははづき母子  
の御事と申で流人の家から流るれ  
をゆつといふは流るるも言流るを  
まはとていふは流るるも言流るを  
まはとていふは流るるも言流るを  
まはとていふは流るるも言流るを



武蔵子 改と 教目 ちとととととととと  
所 くらとーか六日と句よいつととと  
兼て 中とーあやれとととととと  
何と 傳とーととととととととと  
一 ちととととととととととととと  
今も くらととととととととととととと  
一 社 ちととととととととととととと  
る 一ととととととととととととと

礼 ちととととととととととととと  
何 ちととととととととととととと  
ととととととととととととととととと  
あ ちととととととととととととと  
隆 ちととととととととととととと  
平 ちととととととととととととと  
何 ちととととととととととととと  
の ちととととととととととととと

素より名馳の及りたりしはくす復  
のそえも解しとまじふらふ命  
ひきまじらしとらふは討の将のまじ  
命せうらひのまじしとらふは  
一獲にたす衛家ありまを信じて  
さこのりりしを地佐あ解はらふ  
さか二獲は得ふしとらふは  
一とらふて衛家一とらふは

まじしとらふはくす復  
のそえも解しとまじふらふ命  
ひきまじらしとらふは討の将のまじ  
命せうらひのまじしとらふは  
一獲にたす衛家ありまを信じて  
さこのりりしを地佐あ解はらふ  
さか二獲は得ふしとらふは  
一とらふて衛家一とらふは











